

① はまなか

# 議会だより

NO 125

平成30年7月25日発行



カいっばい 思い出づくり (茶内第一小)

## 6月定例会

	国保会計 運営を道へ移管	2P
予 算 議	地方バス路線に係る協議会補助の内容は	3P~5P
一 般 質 問	4人の議員が町政を問う	8P~11P
	雪中翠 (対馬 瑞季さん)	12P



一般会計補正予算1億1287万円を追加

予算総額

76億257万円に

6月

定例会

6日・7日

## 国保会計

# 運営を道に移管

窓口業務・保険税の課税・徴収などは町で

国保税一世帯あたり平均2万9540円の減

6月定例会が6日・7日の2日間の会期で開催。

一般会計・特別会計補正予算と条例改正など18議案

が上程され、いずれも原案どおり可決されました。

一般質問では、4人の議員が登壇しました。

国保税は、国民健康保険制度の改正により、その目的が従来の医療費などの費用に充てる財源から、北海道が運営する「国民健康保険事業費納付金」に充てるための財源に変更となった。従って、北海道から示された「標準保険税率」を基に前年所得と決算見込みを考慮した上で税率などの改正を行った。

これにより、一世帯あたりの平均課税額は34万6313円となり、前年対比2万9540円の減額となる。税率などの改正は、所得割は後期高齢者分、介護分で引き上げとなっ

たものの、均等割、平等割は3区分（医療費分、後期高齢者分、介護分）全てにおいて引き下げを図っている。課税限度額は、医療費分で4万円引き上げられ、3区分の限度額合計は93万円となった。

一方で、今年度も一般会計からの法定外繰り入れをせず前年を下回る課税額となったのは、都道府県化による負担の平準化、納税者の納付努力や、前年度の保険給付費が予算の範囲内に収まったことにより、前年度繰越金が増えたことによるものである。

また、低所得者軽減は、一定の所得以下の世帯の国保税を軽減する制度であるが、今回の改正で軽減内容が拡充された。内訳は医療費分1312万円、後期高齢者分418万円、介護分135万円の軽減となる。被保険者数、課税世帯と軽減世帯、限度額の状況は左記のとおり。

平成30年度被保険者数と課税世帯・低所得者軽減世帯の状況

区分	被保険者数	課税世帯	低所得者軽減世帯	課税限度額
医療費分	2,550人 (2,722人)	1,099戸 (1,160戸)	382戸 (482戸)	58万円 (54万円)
後期 高齢者分	2,550人 (2,772人)	1,099戸 (1,160戸)	382戸 (482戸)	19万円 (19万円)
介護分	972人 (1,094人)	652戸 (725戸)	172戸 (232戸)	16万円 (16万円)

( ) 内は29年度

# 補正予算審議から

## 地方バス路線に係る 協議会補助の内容は

**問** 地方バス路線に要する経費の協議会設置に伴う補助金438万円の目的、構成メンバー、開催頻度は。また補助金の推移は。

**答** 「浜中町地域公共交通活性化協議会」補助の目的は、国土交通省が赤字路線を維持していくために交付している補助が将来的にどうなるかを現在、国の方でも議論していることから浜中・厚岸・釧路町と釧路市を含めた広域バス路線の今後の方向性を検討し、定めていくことを目的に法規定に基づき協議会を設置する。

この協議会の構成は、浜中町長を始め、町の交通関連部署の担当課長、バス運行事業者、国・道の関係機関、地元の利用代表者または推薦者を委員に委嘱し、全体で24人を予定。

また、協議会の開催頻度は、6月末か7月上旬に協

議会の設置も含め、1回目を予定し、2回目は、町民向けアンケートの実施結果を踏まえ、3回目は、31年度の計画を検討することで年3回ほど予定。31年度も協議会への補助を検討している。

**問** 協議会補助金は、高額であるが積算根拠は。

また、アンケート調査の結果と協議内容の公表は。

**答** 協議会補助の内訳は、町民向けアンケートと乗降調査を専門業者に委託する費用が殆どで418万円。その他委員の報酬と交通費などが20万円。

なお、委託するアンケートは、調査内容などを検討し、全戸配布の上、情報収集、分析を進める。乗降調査も実施し、将来の公共交通計画を立てるための下資料とするもの。



将来のバス路線の方向性を定める協議会

また、この結果を基に、9月下旬か10月頃開催の2回目の協議会で検討して行く。

アンケート結果を広く周知する仕組みを検討し公表したいと考えている。

## は補助事業試験殖養力キ



大きく育て半成貝（養殖力キ）

**問** 事業補助金878万円の内容と着業者数は。

**答** 現在、浜中湾沖側の4施設で力キ養殖試験事業を実施している。

この海域での養殖が可能であることが確認できたことから、事業化に向け6施設を増設するもの。

施設設置に必要な養殖かご・フロート・ロープ・アンカーなどの養殖資材とカキに付着したフジツボなどを洗い落とすカキ洗浄機1台を購入するため、水産振興基金を活用する。

また、試験事業の着業者数は15漁家である。

## は活動内容協議会対策家空き

**問** 「空き家等適正管理に関する条例」は、町長はじめ弁護士・司法書士・不動産鑑定士・法務局職員・有識者・消防署・地域住民など11人で構成する協議会を設置することなどを定めている。

その協議会開催経費25万円を計上しているが、開催は年に何回で、1回目の開催時期は。

また、空き家対策計画の内容と策定期間は。

**答** 予算は、協議会員への報酬と交通費で、年3回の開催を予定している。早急に協議会の設置要綱を作成し、委員の委嘱を行う。委嘱予定者の内諾を得ており、7月上旬には1回目の開催を予定している。

対策計画は大きく3項目からできている。一つ目は、基本方針として「町民の生活環境に対する重大な損傷の発生防止に

取り組むこと」を掲げている。

二つ目は、空き家データベースの作成で、昨年実施した実態調査を基に物件の検証をして、所有者などを把握し適正管理を促していく。

## は内容管理維持道町

**問** 道路ストック点検委託料300万円および橋梁個別施設計画策定委託料600万円と町道維持補修工事4000万円の内容は。

**答** 道路ストック点検委託料は3路線の法面点検で湯沸2号道路、北8号道路、南北1号道路。工期は7～11月の予定。

橋梁個別施設計画策定委託料は、町内にある56橋の詳細点検と長寿命化修繕計画を策定するもの。

三つ目は、計画を進めるための体制づくりで、相談窓口を設けるほか、関係各課や消防・自治会などと連携し情報の収集・共有を図ること。また、有効活用や支援策なども盛り込んでいく。

以上のような内容や特定空き家等の判定を協議会で検討し、9月頃を目途に空き家対策計画を成案化する。

町道維持補修工事は、丸佐橋の長寿命化であり、4カ年計画の2年目。



補修される丸佐橋（茶内第一）



# 商工会が事業主体の 町活性化事業とは

**問** 昨年、首都圏の女子大生をアンバサダー（親善大使）として活用するなど3事業が行われた。

今年度も商工会が主体の「浜中町活性化事業補助」として1598万円が計上された。財源は金額、国からの交付金と国からの交付金と思うが、事業の内容は。

**答** 事業名が変更されているが、実際は、昨年の継続事業である。事業の内容は、3事業で1点目としてインターンシップ制度の構築で、事業費が29万円。昨年度ウェブサイトを製作が終わっているの、実際の運用とイン

ターニシップの受け入れを実施する。

2点目は、着地型観光事業を核とした地域外需要の獲得強化事業で事業費は586万円。昨年創設したネットワーキンググループを中



着地型観光を提言したアンバサダー

心としてモデル事業を確立するほか、アンバサダーから提案を受けた着地型観光のモニターツアーを40人程度で実施する。

3点目は、浜中町PR協力店制度の運用による浜中町産品のブランド強化事業で、253万円。これは昨

## 霧多布防潮堤の改良工事は

年度、アンテナショップの実現可能性を検討したが、難しいことから、首都圏で浜中町をPRしてくれる協力店を認定し、浜中産品をPRする事業を進める。これらの事務運営経費730万円を含め、総額は、1598万円である。

**問** 防潮堤の嵩上げは、昨年4区の陸開から大橋側へ371メートルの実設計が行われた。この度の補正額は1355万円であり何メートルの改良工事で工期は。

また、防潮堤は総延長が1.9kmで総事業費が7億7千万円とのことであったが、完成までの見通しは。

**答** 30年度の事業予定は371メートルで2億3200万円の予算要望をしていた。3月30日に国から示された予算額が704万円であり、これを受け、町債などの財源検討の結果、今年度

実施できる事業は、延長90メートルの波返し部分の改良工事となった。工期は、7月11日を予定。

ただ、早期の完成が必要な事業であることから、あらゆる機会を通じて国へ要望している。

4月27日に実施された北海道開発局でのヒアリング31年度の予算要求の場でも全長1.9kmの内、30年度はわずか90メートルのそれも一部しか実施できないことを訴え、31年度以降しっかりと予算対応してくれるよう強く要望した。

### その他の主な歳出（一般会計）

歳出の内訳	金額
散布保育所鹿侵入防止柵補修	280万円
林道開設工事（熊牛朝日線）	1850万円
産業振興資金貸付金（浜中漁協2件、散布漁協1件）	261万円
最終処分場修繕（送水管清掃、点検ピット設置ほか）	222万円

# 意見書(抜粋)

## 可決

◇中標津町への北海道立林業大学校設置に関する意見書

北海道は、造林面積など全国一の規模を有している一方で、森林づくりを担う人材の育成・確保が喫緊の課題となっている。このような状況の中、北海道が平成32年度の開校を目指し検討している(仮称)北海道立林業大学校の設置は、極めて重要かつ有効な施策であり、大きな期待を寄せている。特に根室管内には大学・

専門学校がなく、高等学校卒業後における専門教育機関の設置は地域の悲願でもある。

については、根室・釧路管内の総意として、(仮称)北海道立林業大学校の中標津町への設置を強く要望する。(全員賛成)

可決された意見書は、北海道知事、道議会議長へ提出しました。

## 否決

◇核兵器禁止条約の日本政府の署名と批准を求める意見書

国際法史上初めて核兵器を違法なものとした核兵器禁止条約が2017年7月7日の国連会議で国連加盟国の約3分の2にあたる122カ国の賛成で採択された。

核兵器のない世界を望む国内外の広範な世論に呼応して、唯一の戦争被爆国である日本は率先して取り組むべきである。

よって政府に対し、核兵器禁止条約に早急に署名し、批准されるよう強く求める。

(4対7で否決)

## 専決処分の

### 報告を承認

#### ■一般会計(29年度)

特別交付税などの確定により、公共施設整備基金への積み立てなど5979万円を追加し予算総額を90億860万円に。

## 繰越明許費繰越計算書の報告

○役場庁舎建設工事等実施設計委託料  
1億5984万円

○旧学校給食センター解体工事  
4150万円

いずれも平成29年度内に終了できなかったことから、事業費を平成30年度に繰り越したことが報告された。

## 辺地総合整備計画策定・変更

○策定(散布地区辺地)  
丸山散布地区物揚場整備事業3970万円、平成30～34年度までの5年間。

○変更(茶内地区辺地)  
平成29～33年度までの計画に児童生徒通学バス整備事業869万円を加える。

## 工事請負契約を可決

□公営住宅新築工事(浜中団地H30)

(契約先)丸重種市建設(有)  
(契約金額)1億2474万円  
(工期)平成30年12月5日

□茶内保育所改築工事  
■建築主体工事

(契約先)赤石建設(株)  
(契約金額)5億5404万円  
(工期)平成31年5月20日

## 電気設備工事

(契約先)高部・矢原・中原  
経常建設共同企業体  
(契約金額)8629万円  
(工期)平成31年3月20日

## 機械設備工事

(契約先)三建設工業(株)  
釧路営業所  
(契約金額)1億584万円  
(工期)平成31年3月20日

## 固定資産評価審査委員の選任に同意

田中裕作氏が平成30年6月28日付けで任期満了となり退任されるので、後任に福田敏幸氏を適任と認め選任することに同意しました。



福田 敏幸氏(茶内北区)

# 条例制定を議決 (主なもの)

## □ 浜中町空家等の適正管理に関する条例

・ 町民の生活環境の保全と空家などの活用を促進するためのもので、条例では、空家などに対する所有者や町の責務、実態調査から行政指導、命令、代執行などの措置の規定、安全代行措置の規定、空家等対策協議会の設置などを定めている。

## □ 浜中町漁業近代化資金利子補給条例

・ 漁業近代化資金の利子補給は、経営の安定化を図る必要な資金の貸付に対し、利子補給を行ってきた。  
31年度より新たに当該資金の貸付に係る保証料も補助するもので、内容は、利子補給率が条例に規定する率を下回った場合に限り、その率の差の範囲内で保証料を補助することを定めている。

## 全員協議会活動レポート

議会には、2つの常任委員会（総務経済・社会文教）があり、所管事項の調査活動をしているが、議長が主宰する全員協議会で協議検討している事項の報告をします。

### 霧多布温泉「ゆうゆ」を 指定管理者制度で

○「ゆうゆ」は、町民の保養と健康づくり、災害時の避難施設として活用しているが、運営を民間に委ねることで住民サービスの向上と経費の削減が図られる。

（制度導入のスケジュール）

・ 公募の周知  
6月29日まで

・ 公募説明会・見学会  
6月21日

・ プレゼンテーション実施  
7月中旬

・ 候補者の公表・決定  
7月下旬

・ 指定管理者の指定  
9月上旬

・ 指定管理者との協定締結  
10月1日

※ 指定期間は平成35年3月31日まで（4年6ヵ月）

### 道道津波避難道の 改良に向けて

・ 湯沸坂の歩道は、今年度調査設計、31年度着工予定。  
・ 仲の浜地区のY字状交点からT字状への改良工事は、用地交

渉と支障物件の移設後となる。  
・ M G ロードの複線化は、歩道を車道に改良し、緊急時は茶内方面に向かい左側の2車線化を計画。  
（寿磯橋まで）

### 新庁舎建設の動向

・ 避難道路の造成計画  
L 675 m、W 5・5 m  
・ 庁舎敷地の造成計画  
敷地面積 18400㎡

### 内装カラーイメージ

1階：基調カラーは【緑】  
深緑の大地を表現。  
2階：基調カラーは【青】  
命の源である深い海を表現。  
3階：基調カラーは【橙】  
大地や海を赤く染める夕日を表現。  
※ 大地と海が天候に恵まれ、基幹産業である農漁業の生産が安定し、その活気が町全体に広がっていくことを願う意味合いもある。



新庁舎内装イメージ（1階）



新庁舎の外観イラスト



# 一般質問

田甫 哲朗 議員



## 問 津波避難道の検証と対策は

## 答 MGロードのT字路・複線化から

**田甫** 想定震度を6強とした場合、避難路である道に架かる橋の耐震性および段差解消策である「踏みかけ版」の設置状況は。また、トンネルの強度は。さらに、道道沿いにある電柱の耐震性は。

琵琶瀬茶内停車場線は、指定ではないが、琴磯橋と六番沢橋の点検を今年度実施の予定で、支障があれば対応するとのこと。

「踏みかけ版」は、全ての橋に設置されている。

また、トンネルの耐震性は問題なく、出入り口上部の崩落がない限り機能するとの回答である。

電柱設置の耐震基準は特になく、横風や電線着雪などの耐久性を計算して設置されている。ただ、地盤規制も無く場所によっては液状化の影響が心配でもあり、今後の検討課題である。

**田甫** 霧多布は、3本目の避難道ができることから、確実に避難できると考える。



改修が待たれるMGロード

電柱倒壊などが無いとして、他の沿岸地区の現状と課題は。

**町長** 北海道のシミュレーションでは、地震発生から5分後に避難を開始した場合、全ての地区で全員が避難できる計算である。

ただ、仲の浜・新川・暮帰別地区は、時間的に余裕

がないことから複線化などの対策を道に要望している。この度、MGロードのT字路化と琴磯橋までの複線化の具体案が示された。早期着工に向け協議していく。

## 問 第6期総合計画の策定手順は

## 答 5期総合計画の検証作業から

**田甫** 「まちづくり委員会」委員の公募がされ、総合計画の策定がスタートする。

5期計画も終盤であるが主要事業の中に、全く実施されていないものがある。事業の検証が必要では。

委員会の構成および計画内容など議会との協議は。

**町長** 毎年、進捗状況などを検証し予算編成しているが、実施できなかった理由などもしっかりと検証する。

委員会は、応募者4人と産業団体・各青年部・女性団体などから選出してもらい約40人を予定している。

議会とも協議していく意向であり、6期計画から議会に諮るために、条例の制定を検討している。



# 一般質問

成田 良雄 議員



**成田** 突然の心停止から命を救うためには、心肺蘇生・AEDの知識と技能を体系的に普及する必要がある、学校での心肺蘇生教育はその柱となるものである。国では、平成16年に市民によるAEDの使用が認められて以降、急速にその設置が進み、AEDの使用によって救命される事例も数多く報告されている。

問

## 学校での心肺蘇生教育の普及推進を

答

## さらに安全な学校環境を構築する

しかしながら、学校では毎年100人近くの児童生徒の心停止が発生している。そのような状況の中、平成29年3月に公示された中学校新学習指導要領保健体育科の保健分野では、「応急手当を適切に行うことにより、傷害の悪化を防止することができると。また、心肺蘇生法などを行うこと。」と表記されている。

**本町**でも、児童生徒、教職員に対する心肺蘇生とAEDに関する教育を普及推進するとともに、学校での危機管理体制を拡充し、児童生徒の命を守るための安全な学校環境を構築することは喫緊の課題と考えるが、

**教育長** 本町の小学校では高学年の保健の授業で、年1〜2時間の基本的なけがなどの手当と、自動車や自転車事故でのけが予防の学習を行っている。

心肺蘇生法と、AEDの学習も、実施している学校もある。

また、中学・高校では、保健体育の授業の中で、年2〜4時間心肺蘇生法や講



心肺蘇生法を学ぶ霧中生

習用AED機器を使用し、実施している。教員で組織している浜中町学校保健協議会主催の研修を年2回行っている。

この、心肺蘇生法やAED

Dの研修は、浜中町生涯学習出前講座メニューを活用している。

今後、さらに児童生徒の命を守るための安全な学校環境を構築する。

# 一般質問

加藤 弘二 議員



問

## 労働力不足への 対応策はいかに

答

## 先駆的政策で住みよい町に

**加藤** 昆布漁業者がこの間ずっと悩んできたのは、陸まわりさんの減少である。多くの陸まわりさんは水産加工場に働きながら、昆布出漁の時は陸まわりの仕事に。そして、厚岸、昆布森、別海、遠くは釧路市から陸まわりを求めてきた。

**町長** この厳しい状態をしつかり押さえているか。実態を把握していない。

い。現在、両組合と水産課の3者で「アンケート」を実施し、実態調査を進める。

**加藤** 酪農業で、今一番の悩みは、酪農ヘルパーの不足と聞いている。実態はどうか。

**町長** 酪農ヘルパーの組合は2つあって、合わせて専任が12人、補助員も12人だが、需要には追いつかず、3カ月前から申し込まなければならぬ。冠婚葬祭の葬の場合が突然のことなので、四苦八苦している。待遇は、他町と比べても悪くはないが、人材が集まって来ない。

**加藤** 役場の臨時職員の状況はどうか。

**町長** 30年度の臨時職員の募集は20人に対し、応募は14人であった。

**加藤** 特別養護老人ホームでは、50床のベッドに対して、ヘルパーら職員の不足で、40床の稼働と聞いたが。

**町長** この4月からの採用は、大幅な待遇改善を掲げて募集を行った。その結果、2人の応募があり、42床でやっと運営できるようにな



家族総出の昆布干し

った。

**加藤** 30年遡ってみても、人口減のスピードには対応できないほどだ。どの様に考えているか。

**町長** 人口は、毎年平均100人ほど減少している。住みよい町を目指して、子ども医療費の無料化を高校生まで拡充。農林水産業・商工業の後継者に就業交付金の創設。妊婦や子育て世代への支援。離農者の跡に新規就農者の獲得など先駆的政策を行って来た。

また、今年からはお試し住宅を整備し移住・定住を目指していく。今後も産業をしっかりと守りながら必要な策を講じていく。



# 一般質問

川村 義春 議員



問

## 新たな総合計画 策定の手順は

答

## 長期的視点で 実行性ある計画としたい

**川村** 町政執行方針で総合計画策定に向け、町民と行政が一体となった策定を進めると述べている。計画づくりは、策定要領の手順で進められると思うが、策定の趣旨、基本姿勢、推進体制、新計画の名称、計画の構成と期間の概要は。

**町長** 策定の趣旨は、これまでの総合計画に基づいて、さまざまな施策を展開

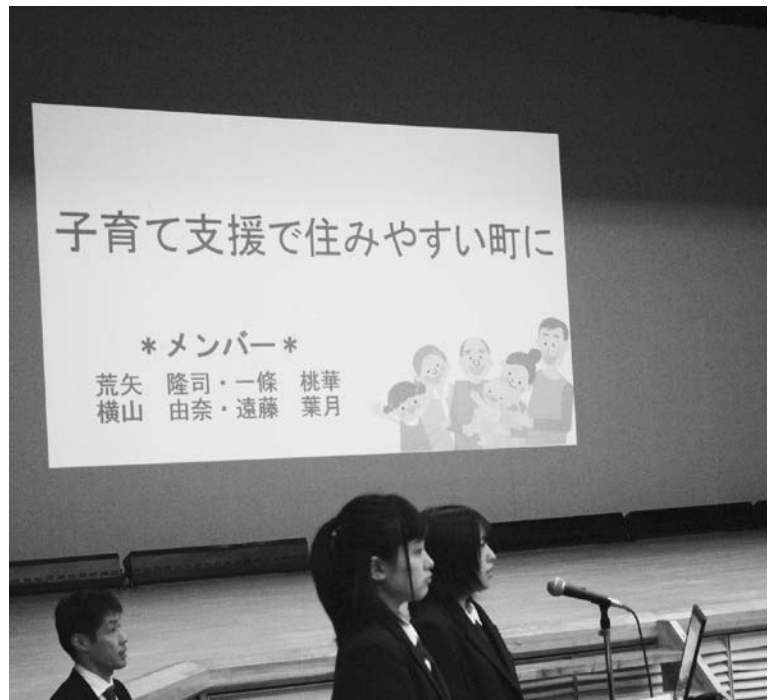
してきた。農・漁業を取り巻く環境の変化、人口減少、少子高齢化の進行、公共施設などの老朽化、東日本大震災のような大規模自然災害への対応など多くの課題がある。このことを踏まえ、産業振興を基本に町民と行政が協働しながら将来の浜中を描くため、長期的視点に立った実効性ある計画とする。

基本姿勢は、まちづくり

の最上位計画として「自然環境の保全を図り産業を中心とした計画」と「住民と行政の協働による開かれた計画づくり」を進める。

推進体制は、まちづくり委員会や町職員で組織する策定委員会などの設置。町民からの意見や提言を把握するための各種アンケートや懇談会、絵画、作文などの募集を行う。

新計画の名称は、「第6期



プレゼン能力を磨く霧高生（浜中学の報告会）

浜中町まちづくり計画」とする。

構成と期間は、基本構想、基本計画、実施計画とし、期間は平成32～41年度までの10カ年計画とする。

**川村** 計画づくりの視点は前期の計画を踏襲することになるか。

**町長** 10年経過し新たな課題も発生するが、施策の中断はできないので前期を踏襲することになる。

**川村** 町民参加の機会となるまち懇を今年には実施しないと聞いたが、計画の骨子ができた段階での実施か。

**町長** 隔年実施してきたが行政主導のまち懇は、来年度実施を考えたい。今年度は、希望があれば対応する。

**川村** 地域の未決事項や霧高生が「浜中学」を学んで地域課題を探求している提言を計画に反映しては。

**町長** 地域課題に着手できなかった状況を検証・分析したい。霧高生は次代を担う世代であり、柔軟な発想による提言は重要であるので計画に反映したい。

# 霧中翠

「浜中学」を学んで

霧多布高等学校  
3年A組

對馬 瑞季



3年生の浜中学では、6月13日に羅臼高校で行われた「知床学・浜中学 地域学習交流会」にむけて、昨

たがいに助け合い、あたたかい  
まちをつくりましょう。  
(町民憲章より)



声高らかに防犯宣言（霧多布保育所園児）  
社明運動オープニングセレモニー会場にて

年度「歴史」「経済」「産業」「自然」「観光」の分野に分かれて調査して作り上げてきたプレゼンを1つにしてわかりやすく発信するために、どのような構成にすればわかりやすく伝えることができるか、話し合いを重ねてきました。

はじめに、浜中町の出来事を年表にまとめて紹介し、年表に沿って、霧多布湿原に関わる環境や絶滅危惧種などの「自然」、観光スポットや特産物などの「観光」、漁業や酪農業の現状や後継者にかかわる問題を扱う「産業」について詳しく説明し、最後に、各分

野の課題と高校生として何ができるかを発表する構成としました。発表するためにまとめ直すことで、より深く理解することができ、発表もわかりやすいものに仕上がったと思います。

羅臼高校の知床学の発表では、「クマ学習」「野外観察」「水産教室」「創作料理プロジェクト」の4つの分野に関する学習成果の説明がありました。特に、マイツリーを植えて観察する活動や、ダイビング実習に興味を持ち、私もやってみていました。また、知床学でも多くの地域の方々の体験活動などに協力していることがわかりました。

発表後の交流会では、羅臼高校の生徒と発表の感想や学校生活についても話し合いました。交流を通して、もっと浜中町のことを知ってほしいという気持ちになりました。今後もこの取り組みが続いてほしいです。

調べた内容をどのように伝えるか、私たちに何ができるかを考えて交流することとはとても大切なことだと

実感しました。交流会に向けての浜中学の学習を通して、私たちが住む浜中町について、様々な視点から学ぶことができ、よい経験となりました。

- 揮毫 書道部2年A組 赤石 夏波さん
- 読み方 せっちゅうすい
- 意味 何事にも動じない心



## 表紙の写真

茶内第一小学校の運動会が6月10日に爽やかな晴天の下おこなわれました。元気な声がグラウンド一杯に響き渡り、各競技を真剣に力を合わせて頑張る姿に子どもたちの大きな成長を感じました。

児童の減少に伴い今年度で閉校する茶内第一小学校運動会終了後には、地域のみなさんと一緒に集合写真を撮りました。

## あとがき

新緑眩しい季節、基幹産業の酪農・漁業共に繁忙期を迎えている。酪農業は、バブル期を感じさせる好景気で推移。牧草の伸びも順調でもうすぐ一歩刈。

一方、漁家は、沖合漁業や定置漁が不振だった昨年に比べV字回復とは行かないまでもコマイ漁や春定置など好調な水揚げ、棹前昆布漁も6月10日から成昆布漁は7月早々の出漁となる。豊漁で活気づく浜が久々に見られそう。

心配なのは自然の猛威。災害の無い平穏な日々が続くよう祈りたい。

我々議会議員の任期も最終年です。行政課題も多い中、懸案の防災機能を備えた新庁舎建設もスケジュール通り。完成は32年度に。

議会広報委員6人は、常に「議会だより」をもっと読みやすい紙面にと努力していますので、ご愛読願います。

(委員長 川村)